

インターバンクの声（2016 年 1 月 15 日）

12時（午前0時）前に就寝後、翌朝のテレビでロンドン、ニューヨーク市場の値動きの確認が出来ないままに出勤。朝、家から出るのが早いため、経済紙の配達には間にあわず、最寄りローカル駅の売店はオープン前どころか、最近閉鎖の憂き目にあってしまった。代わりに飲み物や主要数社の新聞自販機が設置されたが、これまた朝刊の充填前に電車がやって来る。出勤後、PCを立ち上げ、ニューヨーク市場終盤までの相場状況を確認するのだが、金融情報サービスや主要経済紙のネット配信情報にしろ、最近それらの内容がどうも市場の実際の動きとずれているように感じる。今朝にしても、「昨晚のニューヨーク外国為替市場では終盤にドルが上昇した」との見出しが複数あった。どれどれとチャートと突き合わせるが、どの主要通貨の動きを見てもニューヨークの昼過ぎから終盤まで、ほとんど動いていないではないか。ドル円に至っては、むしろ終盤にドルが下げている。まあ、かつて先輩諸氏から教わったように、「市場は自分の目と耳で直接確認しろ」との言葉を今さらながら思い出せば、そうしたいい加減な記事の内容にも腹は立たない。ようやく週末だが、今日の日中にドル円が118円30銭の上値を抜けるのだろうか目が前の注目だ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。